

北へ南へ おおわらわ

——竹下首相 積極外交——

第14回先進国首脳会議が、6月19日から、カナダのトロントで行われました。

ホスト国のマルルーニ首相夫妻と共に、歓迎式典に臨む竹下首相。5度の外遊で、外交に自信を深めた竹下首相でしたが、サミットという“ヒノキ舞台”を前にいささか緊張の面持ち。

西側陣営の首脳が一同に集まり、恒例の記念撮影。ベネチア・サミット以来、一年ぶりの再会です。

続く首脳会談で竹下首相は、「開発途上国の債務の軽減」などを提案。世界に貢献する日本の立場をアピールし、各国から高い評価を得ました。

14年前、フランスで始まったサミットも、今回が二巡目終了の節目とあって、最終日の共同記者会見では、政策協力の重要性を強調。政治宣言・経済宣言を通して西側陣営の団結を確認し合うものとなりました。

オーストラリアの東北部、亜熱帯の町ブリスベンで開かれている「国際レジャー博覧会」。

7月2日午前、竹下首相は邦人小学生らに迎えられ、会場を訪れました。

建国200年目を迎えたオーストラリアの誕生は、ちょうど日本の江戸時代。日本館で当時の庶民生活を紹介する精巧な模型に、目を丸くする竹下首相。

2年後に大阪で開催される「花と緑の博覧会」PRコーナーでは、日本の四季の美しさをイメージさせる映像ディスプレイに、関心を示していました。

また、地元クイーンズ・ランド館前ではカメラマンの注文に応じてコアラを抱っこ。先のサミットとは打って変わったリラックスムードです。

翌日、今度はシドニー湾を船による遊覧。真冬にもかかわらずデッキに出るなど、7回の外遊の中では余裕のある旅とあって、終始上機嫌でした。

翌4日午前、キャンベラで行われた歓迎式典。首相のイメージに合わせたというかわいらしく曲にのって閏兵です。

ひきつづき旧国会議事堂で行われた首脳会談。席上竹下首相は、建国200年のお祝いを述べるとともに、アジア・太平洋地域の安定にむけて、多角的な両国関係を、築きたいと表明。日豪友好関係の新しい幕あけを、終始笑顔で飾りました。